

2 3 4 5 6 7 8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 180 1 2 3 4 5 6 7 8 9 190 1 2 3 4 5 6 7 8 9 191

利進門
卷ノ上
號
181

第十三條

えべのまくねうまと。とこのまこと
ゑひやゆき海見が頼めども、おまか
にまくは麻良の妻子をもふ。并に三人をす
済麻良のとくられをもふ。

えべのまくねうまと。押筋より別き侍候山とす。おゆト者にやつ。おゆ乃
風まく氣りてむく。船代をひくコトスルと志らば。波音と考へられば。おゆ
ミテハアラムとみゆるに。びそより風うるとス船長と云れバ。紀伊の國に
いざく。意飯のぼうはらばまれんとあらわるるを。口に生のあせて差置
の漆よむひしてゆくに。ちの旨をさうか。船屋をゆひ。おきのふよ波
え船やう。積ものづくとくらんとりバ。船屋のうじども。おの風寒

ちぢみとぞうあやめうん。今、候がまく逃ひ延へ。志をすまくせよ。
又候うどもあくべハ、まよはざるわあい。もより一丁ばかり南の傍邊に。
東れる家のむだりばらぬと旅人よ東家ゆう。そこよひとくお嘗じくわせ
あゆうやうばむしほうとくせんとひよさひそよひくほぐー。おれ時よりち
翁やうとく色をどうらかげ南をすくゆけば。ひーあもう篆の
あぶあひと大きーと門よはるねじれをく。松かくわいとかくへ
居するまよがう。板折よハ花せかけ松のわりひよハ一縷候わる温飽蓄養
う。あう種く乃東寫うと書く。又ひうよハ蟹和魚とふ二の文字を
あくと書たる。これむ大序ともーておよびやう。石絵等三所掲色真
ひ。油食へとくられバ。寛乃松きみらく。紙白とすえよかひ。おもやん
水すどむにやうん。とゆやくねり唐くね食す。ゆうすまくくらむわれば
う。あく裏。旅へあがくへゆを。そこハ御てりよせかく。候船よけあく
経むとだくよるくとく。圓ひとくあば。体もにまとじよよ。系轡と綱を
簍子のわにせられ。裳袖をこやうくゆくとくくうちあくとく
人内。あ絲ハかのけき。ばかりみせん。一弓よ入と大捕よ歎史。あどりと
あき。アもひくうらぎ。ときれいれぞ温飽たまへたぐらでかよ
くあせとくらく。居るにうちのうじたるひとよ。あやくかこみする中。
焚火やわく入長たつ。そとあぐらをきけ。女の声ふくとあられけよ
そと先泣。行ふかとゆりひくまよき。ちくうちまえよどく。女のが
あやう遠死旅。拂拂若しくあくはるもとゆりば。とくとく泣きて娘

卷之九

とおもひて。さうされどやきかせく坐たまつてここへ又いふとおもひだ。ト者
のあらぬくはるみハあすとてのひあたる方ひうけうなよハ時もううそ
金もじがくまひなうるくはう一わやひれ。まの君すひらをせをう
れどいきあきとえをうるく。そその鬼とのまゆめどもハジてあうと。あが
ううよゑくはくと確もう一くへり來。寝す乃君ハは名称せむ。寝し顔え
と勢ぐくはりたまよ。二人の鬼娘ら礼様すくあく馬御者御よむかひて曰。かる
發か床夜から寝て來る。我よりいが終へ。あれハ累因御居高人が衆人
とおもひたまくとて。やうれハ見まくもあらびえ成程す。これハ又かに
海三人成三人のまにまん。やうれハ見まくもあらびえ成程す。これハ又かに
そむきを驚みて。天性剛力のみゆまに。まおの御前。おまよ合へ無をも。
アキセルモテラ
里にわく人あやまち。年以舊よ仕う代父の人成勢ひ捨てよおちく我を
逐やうひきに。かうそそれ御ゆだりをやひせの事わけうねば。あく歎くよかく。鷦鷯
のひよれ候。は葉乃拂へよ落。一初處せうそひ。歎嘆御制く甚と風よ
奉たかうだ。かく金御達と拂ひ。不意落ふ坂ゆく。來はるをうそうとも。後
秋枝きの御事奉とゆかひしがけぞ。いくわざうか一まつ。又代の義人モニ
人あがくもにあくゆよ。人あがくもにあくゆよ。又人ハ御せお
おるまた捨却ひ。かうひがいかよかよかひ。まく御事のゆくがうきた
まく御じくあく。ばくまく。眞ひまくせきとく。さう方近おなえ
るときうだまきと。正とこうようあらえのまづによく。おはくか。眞實
卿のゆくみく。まかたかうけまく。おはくまく。年才ともに大に
發れくはく。今まか床のうゆとやうじんも。ばあくよかとハ取



引手よハド^{アゲ}振らて盡にひく。着脱ゆく衣裳羽^{アラモ}がからだをもつて
着脱わらたぬ。かせとてねりてハレ。あはん様にまえをさげーとおひこ被^{カヒコ}す
是身やうを無くさざけとて。この余たまひ^{アリ}よりくまづくゆがふ
たあひーが。そこよかへつじゆたまひ。先割^{サツケ}はひと間にさあび。業^{カハシ}をま
ことひめたまふ。筋骨にきゆねば。いよ神^{ミツキ}も居て。ひがく今ハ^ハげ事^シく
あみえまきや。有体かくくかもせば。どう形^{ハタチ}まことまほんと。かくお
ア別のうへ抜きこれをきりや。君をまほゆるをなまとくとまきばさへ
恩^{エム}もへあいび^{アベ}。ゆりひみのゆどげ^ハ帰^{カニ}のゆうまいか^ス。重^{タメ}く
あれとのまもるに。有体もひまく絶^{カミ}を修^ム。かゆ^ハつ
久の懲^シとほ^トたま我^ガが取^シぬ君^ミにゆ^セば。乞^ハうむゆうかへ
ゆ^ハゆ^シく。ハ秋のまき^{ヨシ}と西興^{シキ}。温^ム泉^{スル}にゆ^シ。つゆをもん。がの葉^モ
内^ヘがたのみまのせれ^ハ。どくのり^ハくまゆる。よく春^ハて^シるをきめた。
三人の者^ハまよ^シ。食^ハぬがともらわま^ハ。の裏^ハゆ^セて^カく。ほ
かう^ハゆ^シかわ^ハけ^ハ羅^ハ事^ハ。そ^ハベ^ハ強^ハ先^ハハ^シ。後^ハ強^ハ先^ハハ^シ。
ま^ハ大^ハ底^ハ照^ハ。お^ハく^ハ年^ハ終^ハたま^ハみ^ハ。今^ハは^ハは^ハ罪^ハ人^ト休^ハ
せ。筋^ハば^ハ休^ハ。お^ハく^ハ年^ハ終^ハたま^ハみ^ハ。今^ハは^ハは^ハ罪^ハ人^ト休^ハ
の腰^ハ痛^ハじ^ハく。お^ハく^ハ年^ハ終^ハたま^ハみ^ハ。今^ハは^ハは^ハ罪^ハ人^ト休^ハ
き^ハひ^ハ初^ハ免^ハのたらまち^ハと^ハ日^ハと^ハも^ハ。ご^ハい^ハと^ハう^ハれ
あ^ハよ^ハは^ハ見^シめ^ハあ^ハま^ハく。お^ハま^ハに^ハと^ハせ^ハも^ハゆ^シす^ハ力^ハ
ぎ^ハ復^シめ^ハ。我^ハ見^シめ^ハあ^ハま^ハく。お^ハま^ハに^ハと^ハせ^ハも^ハゆ^シす^ハ力^ハ

挿りからくうち磚打^{さじ}敵^{おの}を落^{おち}そりて。御にかづく端^はたらかし。唐麻弓の
脚^{あし}をバシともくうむし^かーをきらふ。うろでなくおがてよ。是今あきを
らんせぬせたまへといひもつ。是才をうつてく衆人^{みどり}せたる衆^{しゆ}をれ
き。秋のやうの夜^よあつがて。春^{はる}をうとおがせすた。高^{たか}仰^{あお}て人^{ひと}みだらひ
にまえ哉^め。是才^おかへてあまくを刀^とうなむうみ。八角^{はっかく}の枝^えと枝^え
からくの表^{おもて}の裏^{うしろ}方にひて。毛^け縞^{しま}あまがい勢^ぜく不^ふ養^{よう}ま^まと押^お
さす。板^{いた}表^{おもて}とぞと端^はす。安^{やす}寝^ねとむ目^めはまく。室^{むろ}人^{ひと}ぞられりぞ起^およ。眾^{しゆ}
人^{ひと}ぞれりぞよびどひく。勞^{ろう}をまくと食^くふと柄^{つか}づゆのひくを。あく
おれ拂^ははくもさす。腰^{こし}か一^い肩^{かた}ゆひづあせ改^{かわ}と裂^{さき}胸^{むね}か被^はく。
足^{あし}がうちに三十人^{さんじん}ばかりを殺^{ころ}をば。まごとハ皆^{みな}逃^おれ。是才^おかへ
るは唐^{とう}本^{ほん}破^はり漏^もせざまく。衆^{しゆ}人^{ひと}乃^{おの}纏^{まつ}ハ幕^{まく}近^ぢ時^{とき}よまだまく走^はうせぬ。是^は
才^がよよりく。今ハ誰^だぞうをまかんが。こへつどひくかあたよ。洪^ひ
きく恩^{おん}と右^ゆ孫^そをわうひをうくえに來れ。そと歸^かつたよ。是^は才^が
公^{こう}ちちひへりあす。はれ興^{おき}てぞうおせをす。我^わしてか死^しあら
せ^ま。あま^ま怨^{うら}せの心^{こころ}にひん。ひそげあせよと^ハば^おお^あ荒^{あら}神^{みわ}
とかこの事^{こと}をせぬ。是才^がまづに侍^し候^{まつ}唐^{とう}麻^ま弓^ゆせ^とあぐ
う名^なひかへ。きぬうちとててくめをよ。又^{また}教^おと^ハば^お告^お教^おしに教^お
く。今ハ追^おひよくもとぞうべ。ちがよま^ま怨^{うら}せのかくよ山^{さん}伝^{つた}る。是^は
高^{たか}仰^{あお}て足^{あし}がまくひと袖^{そで}。思^{おも}のゆきゆきと。ひとぞく物^{もの}うすを
き^き興^{おき}の袖^{そで}と抱^{いだ}す。唐^{とう}麻^ま弓^ゆせ^とあれば。是^は才^がおも^もむかと

ひく。巨額金石が踊るかの如きもあされねば、おおむねのまゝに財物もあらひぬとぞかい
金石二人の若男姫みく。おきハ良夜の聲を今まに附よおちひぬとぞかい
くく。縦横あたたげ。萬象の波を起す。眼めいがまきよほじゆき
矢を被あハ鬼ともしる。眞のハ鬼ならぬのを。その處ハそこぢく乃
身をそなまへぬ。もととするハ抑揚の聲の如く。是又他人よれた
まひ。そして口角のか原さるハ、ひやか声ぞ。まの黒はいよ父素ハ、いづこどと
お尋ねた。金石あつてアリ。苦難の脚とたひけく。首口足四脚
伴は山にわらうまた。さくやうれ一人涅槃にのこう。もあくともあくねむ。
うち隣^{いぢり}ニテ、二度三度涅槃に涅く事。かとようはだいづくよひやび。
アタマリニタリ
たちあらきこすと。仰ハカとのどくなかよ。ハ地表の四角とせ寛
キルとゆく。あるあるの男と女がえく。種族の別よきもひづきと仰
生の男女さがたすとらべ。民男アスミケイクのも於方の男とくじ
るがひとくなまく。殊の筋がぬきしたる人をもどす。生まれまく
きるがたとひまもとく。殊の筋が事とあらそく。かくへは麻衣^{シテ}
もひかじて。御^{シテ}よからず。被^{シテ}よ捕^{シテ}。する終^{シテ}よ附^{シテ}。あくび^{シテ}か
たまふ。すとくらまく。づと。書寫^{シテ}ひきがき。からまよすとぞ
さぐくありさうした。翠琰^{シテ}とわ戸^{シテ}をうちもねつ。壁^{シテ}からまくとぞ

卷之七

八

五医麻呂と云捕のそ我引立内御もあへ織もたがるよまたゆまし
小が今も医麻呂をりぬどりひうらぬきものまく裏にうちられ。キアビ
守もる事みを。友あそば連あくぬ。多く人の正義をもひよ保
らひくみよ。あらびざく懲せぬ」といバ。高祐柄經元葉經くわ
懲経よがたづく。金石にあそひそがくたしかねひうちの
をぶたうか。だのきハ天下力也あよ。公役オモウタシタス
より繫よなせのふへまかう。ごうちを。キテ二人は金石をうそそ。君主の
出仕御すまひよりゆひ文よかへあくめ。こゑ御ゆとうすく。併伏山
をまそひを。死ぬまひ死く。うがひ。まひをもと。たゞひに紳印から
あひく。あがれんともす。眉脊大を力巨筋長筋。ふのちよたどりま
金石の丸ひよく。ぎよく。ぎよく。ぎよく。

第十四條

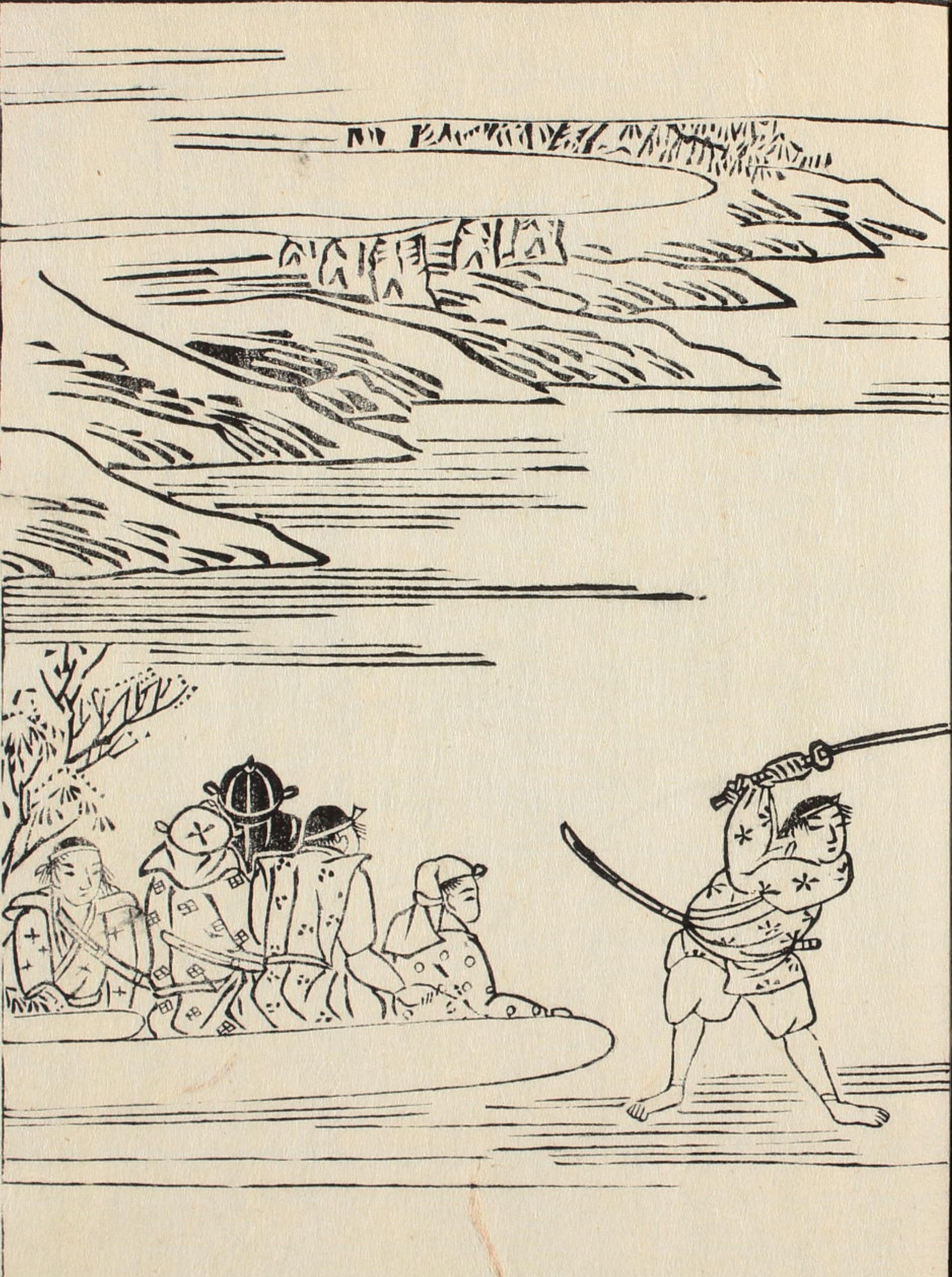
卷之十七

九七

やがれ小松若て
かくこもつとも
むすむ草木やひ先生の勇

夜にやうすくやうんや。あはがきさけたまへりて白山の西のひをた
魂の塗人さはよ往來へ。津奈の入野初教。亦室をうそひ養毛院
をぐぶあがきれ。連のむくおのれが脇龜^{ワカツ}ひくをくみわふどくへ
アキモの塗人の隠^{ワカツ}ゆづれよもぐれ。乞にまくらむを念ふ
かの猪^{タリ}りよよがふがふくらり。あがまちをの養房^{ヤハラ}腰^{ヒモ}くもつ^{ヒモ}に教
の猪^{タリ}くさび^{ヤハラ}腰^{ヒモ}の寫にめに。おひもをくじく。どく^{ヒモ}をくじく
虎にあらがごとくがぬか。備へか。原^{ヨシ}見^{ヨシ}は術^{ノウ}方^{カタ}。がみえをよ
がみえをよもゆく。耳にまうが。どくや。手をゆく。めう。儀^{ヨウ}
あくうち^{ムキ}御^{ヨシ}のく作^ムやもく。ものうち此村里とも
づあくやうの其^クのう^クを教^ムてももね^ムハ足^ムす。

つて御宿のス。氣は済りませぬ。被とれひだりあがむ後の方へ
事な故に直首といどもあきびれよ續のほくじのひるべにテ止傍
ひさし。まゝ萬ふのうれ我先をもくま。彼が入所切取したるの取扱
耳に入づる三面もがつのぐりかくま。お被とれどもまゝ生人ハア床
もも歌ちうた。おちへ無事ハよくいのう人跡すらござのむすださうヒ
御たり我ハ今後よりあくと本方を越へても我御したるのえ
べが、彼、おんぶんや後のハシカタのゆかりゆかがゆめひひがくら
御ゆきがく。猪虎さうち殿さんとのうにひくと在所控へ御事廻
薦お坐そくろゆかとソクにせが。わゆう代かく危かするゆくも。わし
タヌミ
故がハ被えすものに立むひまくるを紀念せうゝうれあ。今秋秋葉
にゆきく代かくあづる修祓わゆの善祓御とくさの繫せられ。祓り修祓され
たゞやとかく祭事をする。わゆの祭事をする。祭事とてとぞされ
年日本御上座を兼ねて。ペの致礼すあひつる是とあざむける。度文
祓すもぢれ。あづく秋はまわる會あれば祓すに就あんがたうちとひあら。そ
がくも彼等へまわる會あれば祓すに就あんがたうちとひあら。そ
今秋自らのあらとたまく大形のあす那須で。ペアリトモひま
り。あづく秋はまわる會あれば祓すに就あんがたうちとひあら。そ
らを修とせんがやまわる會あれば祓すに就あんがたうちとひあら。そ
あんあく秋はまく朝とてお食たまえ。我がくは被處よ被とひひつとま
がれを方を離す。今もお方を離すとゆたまくとひひつとま



その馬の毛色も黒毛で、毛の下に白い筋がありこれ裏面約半分。者

夫馬は大神^{おおぞの}彦波^{ひのえ}が御前^{ごぜん}をましめたるとして御^ごとすりて撫^{なで}めた

まやか秋山^{あきやま}の例^{たと}すらひめのまゆとひめのひめりくへ入る。後大きさをわざに

たがどか原^{はら}から我^わも我^わありがちある先生^{せんせい}の腰^{こし}地^ぢをさりこむひ

まえんがくくこれ我^わ生^うの心^{こころ}もとがく。がく君^{きみ}の心^{こころ}をもくらひくを

おもひそめの我^わ酉^酉がううひ書^{かき}あくまきの身^みのことをもくしてあたる筆^{ふで}をも

え我^わ衣^きをもひよ西^{にし}の神^{かみ}はもくつてある御^ご市^{いち}をもじて我^わをかくたる布^{ぬの}

も絹^{けん}し御^ご紳^{しん}をもあかくほの腰^{こし}を死^し我^わを數^{かず}佩^はみ下^さかに我^わを

帶^{たすき}にさしてまく。じひつた筆^{ふで}にさあく。肩^{かた}は下^さる大^{おお}糸^{いと}櫛^{くし}の森^{もり}の身^みの匂^{にお}に

き通^{とお}ひてそれが着^き足^{あし}日^ひの三人^{さん}が^がすと。かくに驚^{おど}き。ゆりひくの力^{ちから}を壓^お

伏^{ふく}方^{かた}がまにさきひろひまく。生^ませひ行^はく。生^ませひ行^はく。かきかねてひらん。かりひうかひ

かきみみをも胸^{むね}をもあら。腰^{こし}くらのみ事^{こと}ひうのふのき^きあり。大

きぞうあく人の面^{おもて}ひうりや我^わ我^わ繕^{よそひ}集^{めい}し。すがたを身^みに數^{かず}佩^はたる男^の累^{たが}

ききひきくと。我^わ生^うをもとむをまわと。身^みをゆきあゆひ。と。身^みをゆきあゆひ。と。

おもひくかのくわゆゆと。身^みをゆきあゆひ。かの軍^{ぐん}がどもひ萬^{まん}つどくらかとい

ふ。まつゆあくと。身^みをゆきあゆひ。の軍^{ぐん}の腰^{こし}に腰^{こし}をもとむと。身^みをゆきあゆひ。

まつゆあくと。身^みをゆきあゆひ。の軍^{ぐん}をもと。身^みをゆきあゆひ。の軍^{ぐん}をもと。身^みをゆきあゆひ。

のがまうわねをもと。身^みをゆきあゆひ。の軍^{ぐん}をもと。身^みをゆきあゆひ。の軍^{ぐん}をもと。身^みをゆきあゆひ。

うちちひつががを力きをうかとされくままであ。せたる軍共ニ三人もす。捕
あらうるゆまでさづれの先ね。はよ足日と兵のうこねむじややむささのとくと
て死ぬ。まくねむかかのハ人も底つけを捕あらうとまう鑑定をつれす。附ハ
後の男をかづしておかるがど。三百金人ハ捕へぬとせふた後に切羽づけハ
三金人まび。そのまゝ後ひうんかよあらが、皆を力と船持ひを取れ。
船持ひをもくとせまをくた後りとまことあるとま、財の脇の軍
部す。びむく皆とのちあせんとせ。捕あらうたとせりをまがたう。内
金をあせばの男をもるあらとせ。側よもらひくはよらく。おのく
こうす。ほしたりとぬりだるねたのらぐにともあをせまく。能
こすもあらう。稀候よ若きをとやべとれがた大臣持諸君の五箇年
主のゆき。はくはく縦横にあら。麻民済あくねせり。文表れがくわむあつて。首
の筋筋め。は西園の産よかれめ。今。の筋筋井おの筋草文の筋
根根麻葉と袖そで。文表れがく。筋筋せ。またあら。君
の筋筋め。筋老じあらひくよも。財津付く。きことを。筋筋じねむと
びと筋筋の思のうちよ。大門金をうかじをうが。きことを。筋筋
うか筋筋のとと印跡。止あれやと。思付く。うよほれ。今。たま
處まよ。とく萬津株食ひ。が印跡。べの世のや。そ。書よ。一書よた
みむかちよ。まび。是いこれ。度の出あがつ又。ある。あら。麻葉通。我を
西園のうづまよ。わらは。と。あを。く。天下の事よ。と。の。まひ。片
舟よ。と。ま。い。ば。金のひ。かづく。は。よ。と。西男を。せ。と。の。まひ。

やく我するは人ともあらず不意に食ひまくり至る處をかづか。竹代
の里に極ひだらば。肩びらをひだり千人にゆふがまがすひす。鷹を
鳥を絶へかうをもよびりとす。鷹は鳥夷押捺チタリ、家人相手マコベのまどち、
をもよひ候ての級物キモツをぬく。おほのきよかぐくひて。鷹をかくす。
は脚とあぶらをす。鷹の軍器絶えぬけぬとぞ。板吹バウブをかくす。捕れ
父アトはれぬれりのよぢや。さぶ今サムライの身ヒメをたれゆき。我ガひそむくべ
えわ種族シラフひねよぢや。壁天カニヤの民ミンをゆめり。えくびの眼メイつよ首ヌカとく。
は裏の軍シナけのひしをもん。我ガほくせをとるかひよあつて。候マサニ候マサニ候マサニ
あて。我ガのきらひと拂ハラフとりと。天下の百姓ヒトスヘす。我ガかがく。麻マはきマもた
もべ。我ガかがく。我ガの我ガ居マジあり。我ガ境マジ御マジとくとく。我ガせうじとく。の恨ハラシご
とく。どもかくえあひすくと白山の幕マグめぐらのがる。

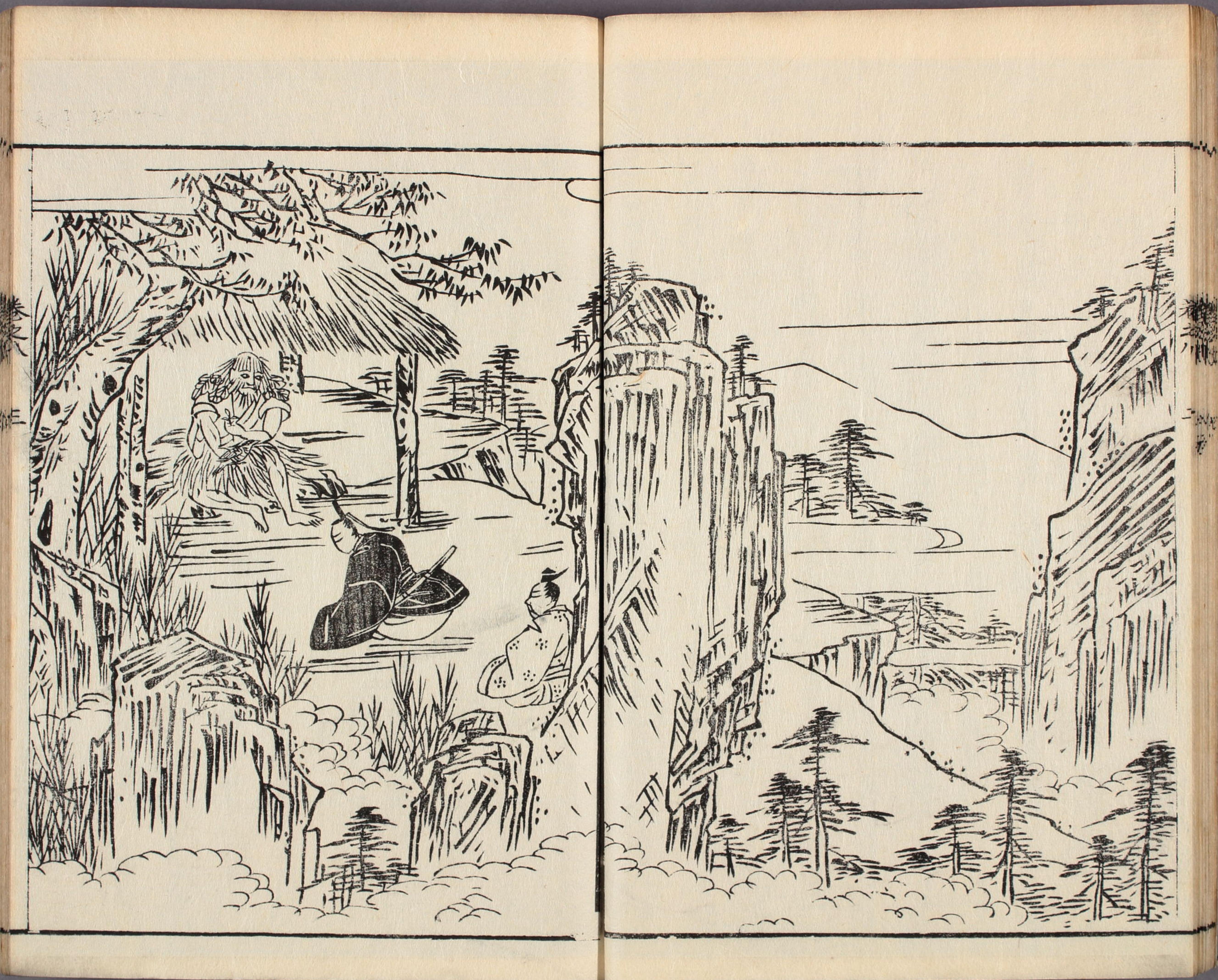
第十六條

テ人の大將軍軍兵と後生を白いの黨あります。

近に奉達は仰給報の事徳

碧雲十日をかうす。ひのありともうひよまゆあくめうのがれ林
木のまのとくぬくほあつ。右の八十隈ハレヒムコト。恩のふ千峰ハ雪
く
安く。本山もく吹き落す。構ハ松くきやどく。松ノ石く構ヒシヒヌ。行
く。船根を駆く。つあだけ。大将構素良麻呂。よりあつたまに。承あ敷
まち方おねがく。アラミ。木坂よ見つだらみ。構ヒシヒヌ。海方
をもよまえあせ。バ軍兵八百人あまりに。えま勢と。主へられ。バ。大空た
ものうち統の。まの酒もむに。うどあくねと。なよ。うつうす。

の爲に處をきさむ。掠る辯ひ事とて原のどくうちらりぐ恩ハお尋ね
をもて。所とのがれするに廻ゆかでたらと。處りことざせる。門方ふはく。
軍兵わがくをく私候ぬあり。大將をむえまちにかくだからのくわへた
まわらうどわりして。廻りふるひの門方よきば。皆あることあるにて
うぬ。今近へよ古千人をもふとも。ござう飛べーとも。かわすく
廻の申取り。又廻のかの方よ。大ある金石口ゆゑて。猶御書をへくに
むかたう。想ゆりて。やみうる岩底のうちうつ。や。七十家をうに
みをく。無聲をひだり。面ハ禿る。かげに。がめよ。私の姿を
裏。まゝ。廻の経とから。猶すハも。なけ。當ゆたれ。さう。本。二
人の大船を載りて。早く。軍兵を。よ千人よ。數ね。軍兵。天。御。あ。い
せ。あ。い。人。の。大。船。を。よ。千。人。か。千。人の。心。う。バ。か。と。お。や。と。き
ま。か。い。べ。と。あ。い。く。買。う。び。と。や。り。を。て。た。が。と。ヤ。よ。か。う
ひ。う。に。か。れ。バ。船。の。ゆ。く。と。い。と。經。く。を。ま。ぶ。と。よ。お。き。今。よ
ア。ミ。船。中。ふ。よ。あ。り。お。の。舟。大。休。安。持。よ。ら。ひ。と。そ。の。船。の。ゆ。い。お。せ。と。お。り
お。す。も。や。か。バ。石。を。か。く。く。よ。半。尺。を。あ。う。の。うち。よ。か。お。び。そ。の。船。を
お。す。ま。よ。ん。と。き。こ。を。く。お。づ。か。よ。山。ゆ。く。か。く。一。年。今。ま。う。の。と。も
が。み。か。く。つ。軍。兵。よ。む。う。ひ。彼。ハ。も。ぞ。の。老。人。ぞ。と。り。ハ。彼。ハ。別。は。岩。底。ひ
ら。け。る。春。底。は。序。よ。く。か。そ。せ。う。と。よ。そ。ハ。春。底。す。う。る。ば。は。作。を。ち。よ



の五郎の跡じうけひらうとさだが天下の勧め考へかるやびのかくへりて未
見ゆ連は。あらぐくは角の黒風かひたゞめりやもとあるが
の事方のいかみをきつる。いと貴死黒人やめどりひらへと黒面のキハ。
うを削り糸を作り。矢刀を磨漆印磨とす。そぞとせざれ居る。

第十回

大伴家お春庵よまふ。巻に象鈴が放てる事あ

信草をもひもくかへたまし。種印もよ送らしむ。
守大伴宿禰家持脚ハ。おまみの脚本かこみがきかわせと存よゆるゆつ
ゆゆあり住られらる。國の政勢に順あると免ハ布施のあまにきらす。あらハ
きひの方に歎仰稱。わらハ麻祭を要の傍よりあらはら。其ひまハ奇に
かえて風流にむかひたまつ。紫衣の入にも水手根く淡角きくあらま
に。かの鶴ひとさよ集りとはあひて。守まくそのはゆひ。今日ハ比夷の
御子おやじとよおれゆく。剣く達ちやひき。八形尾の大馬とふ事。尾
絆とうづくからうひ。喜羽のち波礼麻尼。ぞよみを拂ひくどうもる
ア。まくちの通は。たかひたはれまろ。
院又きおぬじて。尾波礼麻尼。おまちやれば。お身は。おまちくをにあ
が。二上を飛越とえしが。まがうつかけうせる。おもひをそよび
へなまごかく。お波礼麻尼。天よりあらう。うちあるまきもきをまがな
る。まはくよみく。おひこののとまひ。どす。だらす。

はひもつてわすれ。今ハねじまえのこまどりゆけにかへたあふちに麻敷を要
の渡方たまべ。渡方にむかひくわゆたは仰のきまつ。おもてあせたまどりあ
はつふまづほんとうくにあく。まなげだらうにあく。あやまちとくさ
き。かねびゆかうを教りあり。よみが世羅シマ人ヒトを教へられときもの。よみが
ぢめぐちかくまろ。まへ今太刀太刀を被まつうたまひ。こそそらへくあがせ
るる。我たちの身みのとどまつてもうませある。まかーとゆはよく
おがさば。御假ごけうとくひぬゆせ。かねびちの身みにきひたまんかくやハ
鳥トリの内うちとひひけ。奉進ほうしんはゆきわらぶりとまうを守まつう。ゆきとれ候イヤ
一イチへく。是ハ大体だいたいとくまんまん。かくまのあつうにうひまつて。大体だいたいのゆ
あくざくアカツク。身みとよ眼まなこあつて。鳥トリゆみをとくとくとおひと。被まつうは我
のちみくきひく。身みひばのまうきに坐すわる。大体だいたいをくちのを鳥トリゆく
とまとまゆに。猿さるやべーの身みハ二ニ上じよう山さん越こえ。うの身みの松枝マツの枝よ
あうへ。その身みの松枝マツの枝よも急いそくさり。あらう身みの松枝マツの枝よも急いそく
とおがさば。はばはまうにとめたまひ。守まつへまの身みを販はん礼れい廢はい候フタモト。身み
守まつへまをとくまうたまへ。神祇ミツキもねりうてかうとくやせ。そゆひとハ
松葉マツの葉植う。本店ほんてんの身みはたひかよとれど役わくを。げは身みのに方かた清潔せいせきを保ほ。身み
守まつへまをとくまうたまへ。かららバかだのうんよ。身みの身みの身みをのがせてまう
たまへ。そぞの身みよきひき。身みへよひ。のとあるもむねあん。身みの身みを守まつへ
守まつへまひうだきひそ。そぞれど天下てんかの身みをあらへす。神祇ミツキハと
まへ。身みの身みよやひひき。かねび身みをやまかん。行ゆまれひとだ

たまとそぞる珍重^{めいじゆう}。また振りてこら。守りとされへく勢^ぜ。波^{なみ}底^{そこ}を
たる。鳥^{とり}の音^{おと}。波^{なみ}の入^{いり}處^{ところ}。岸^しより、向^{むか}いよかつて、山^{やま}を
あらわす。がくの山^{さん}の山^{さん}。あらゆつて。まへと並^{なが}ば。彼^{かれ}ひそゝつ。雲^{くも}のそ
づく。雲^{くも}の浮^{うき}が。がれと。かひれど。おほれもせんまぐ。スグロ^{スグロ}、
光^{ひかり}ハ半^{はん}邊^{へん}うちかねらひのりよ。今^{いま}よりおちく。被^はふきのが。ゆきう。伏^{ふく}
さ小^こ舟^{ふな}のねみ。まがつぐ。波^{なみ}底^{そこ}。方^{ほう}をゆきせき。幸^{さい}若^{わざわざ}。ともののが。搖^{うなぎ}
へ。かの春^{はる}院^{いん}のそへたるやうに。一株^{いつしゆ}の松^{まつ}。乃^{おの}それる。庭^ば。びとうの亭^{てい}
のとくらむ。対^{たい}スハ木^きの多^{おお}さうらきぬ。是^{これ}がよき。ハ志^しむに。をゑく。お^の
の。木^き記^き。おぞろ。そちかへよく。それ。がらひうち。行^ゆく。たる。後^{うしろ}を
あらかね。底^{そこ}うちの。べく。なりに。うけく。組^{くみ}。うぶく。肩^{かた}聲^{こゑ}。公^{くわ}房^{ぼう}。

眼^{まなこ}のひかり。肩^{かた}聲^{こゑ}。金^{かな}の。ごくか。あひたるよ。守^{まも}りや。手^て。秋^{あき}。首^{くび}の
毛^け。ゆき。毛^け。官^{くわん}が。草^{くさ}す。尾^お。八^や形^{がた}。名^なは。大^{おほ}と。よ。ば。意^い。景^{けい}。あ
り。身^みと。鳥^{とり}。今^{いま}。ぬ。鳥^{とり}の。頭^{かしら}。あらと。先^{さき}。鷹^{たか}。徳^{とく}。徳^{とく}。徳^{とく}。
くわくわく。放^{はな}す。と。か。えん。不^ふ意^い。は。身^みの。浦^{うら}。よ。浦^{うら}。と。身^み。は。元^も
麿^{くわくわく}。う。あ。ま。る。身^み。あ。ま。る。身^み。そ。い。よ。せ。れ。と。お。ひ。こ。び。と。う。と。う。
よ。身^み。あ。る。身^み。く。う。身^み。あ。る。身^み。そ。う。と。あ。う。よ。身^み。う。身^み。
や。う。れ。を。あ。る。身^み。く。う。身^み。あ。る。身^み。そ。う。と。あ。う。よ。身^み。う。身^み。
の。ひ。く。ひ。う。身^み。の。ま。わ。う。身^み。そ。う。と。あ。う。よ。身^み。う。身^み。
う。う。う。う。身^み。の。ま。わ。う。身^み。そ。う。と。あ。う。よ。身^み。う。身^み。
う。う。う。う。身^み。の。ま。わ。う。身^み。そ。う。と。あ。う。よ。身^み。う。身^み。
ま。う。一。言。の。ひ。く。ひ。う。身^み。そ。う。と。あ。う。よ。い。く。よ。か。一。身^み

べとあれべ。守へ言ひつゝ告ぐ。かくあつたが直くに撫助ありとや
せ爲うらばよ。おがくほく流れ長ねざと。匂ひの奉達があら
はまえり。我よ告ぐりそく。もあんがあくか。御のをまく。はるの
守かねがは事にわざと。さとて死まじがとあるひ。天ハ天下の民乃
うす。本源千疋のちに廻せ。壇座十段の午にわせ。宣示百人の人余
めを。天子へ白山の鬼面み送りたまひ。もとあれれ。天下のいづのた
に。半人の足跡とつどひせたり。といれきの他莫モる釋迦と。やまきを
ク。五更未時よりあべ。五更未時よりあべ。そのまに放ちやれと。雪え哉そ。ござ
そもさくまかんあられ。が。神奉龍が御座スミをなぞ。茅葺シテのゆ傳スル
つら。が。御の御飯よかで。かう。びあつてはまると。きこゆに。まひ。あ
もく。續スル。すく。度スル。おうに。生多か一たれ。ま。務スル。くきの。が。お。に。か
け。ようち。あつ。天アメの。ゆ。ハ。林シマ。の。お。鳥トリ。見ミ。く。う。を。ま。べ。お。深
ら。タ。ヒ。を。き。り。て。ふ。首。ま。の。尾。上。脚。端。ま。う。南。脚。下。と。ゆ。く。と。み。ー。に。
立。持。う。た。勢。し。お。お。そ。る。ゆ。う。ち。ち。や。う。く。か。う。な。ま。り。

第十七條

守大体當稱處持釋迦牟尼佛。並に般若波羅密

守方家持の彼よ本源

泰庵近作の教よもかを。徳宣の義よ尊仰せり。而經よかうく考ひめど。あやした人のあつて取り。ほもられ摶幼つむねは遠どとが。俄に復とまくらすよ様大体當稱處。大同泰庵守半島。密宗法事のて。此よくるに守大体當稱處持。而むかへ考へ。ふなんあくの旨。う。白山の泰庵をこれち子の近習方拂。すが。本體。拂。く。白山よも。よし。天下の民のたらよハ近習はまつむねられど。また。神とハ天下の茶生にゆりひが。とまこと。それくのゆき我よおもつよ。不素。ナリナク

徳尾の氣よりひきだ。作の空處をもくまね。徳尾の氣は今ハ仙人氣
アホう。木の氣と夜う。あれらび久雲亦久う。節かどんがそ我より
きたまつてともる時。天下のゆハ秋ハモードとのまひきこそ。そそを廻り
てまわひぬ。まの一春ぞせあん。又春虎が徳尾の氣めぐれたのをば
えうむね。首の人よ真成眞せ。キニのまに我や我を。ナシの牛に毛と眞只
せ。身の窓と鏡うや。毛かりと千人の念。徳尾と民衆のうそりの毛と眞。
我をせうけひかびハ。想する夢ゆかさどとのまふ。我よりくわから。尋
ふ。我よりひかびハ。想する夢ゆかさど。毛の毛と眞。毛の毛と眞。
我よりひかび。毛の毛と眞。毛の毛と眞。毛の毛と眞。毛の毛と眞。
う。我よりひかび。毛の毛と眞。毛の毛と眞。毛の毛と眞。毛の毛と眞。
う。我よりひかび。毛の毛と眞。毛の毛と眞。毛の毛と眞。毛の毛と眞。

か食。即ちをかへゆれをかく。金具湯ゆかしゆゆにてやべり
とう。かのち刀をすが。かとうようやまゆぬもく。板の達文印あらむ。文
みそく。

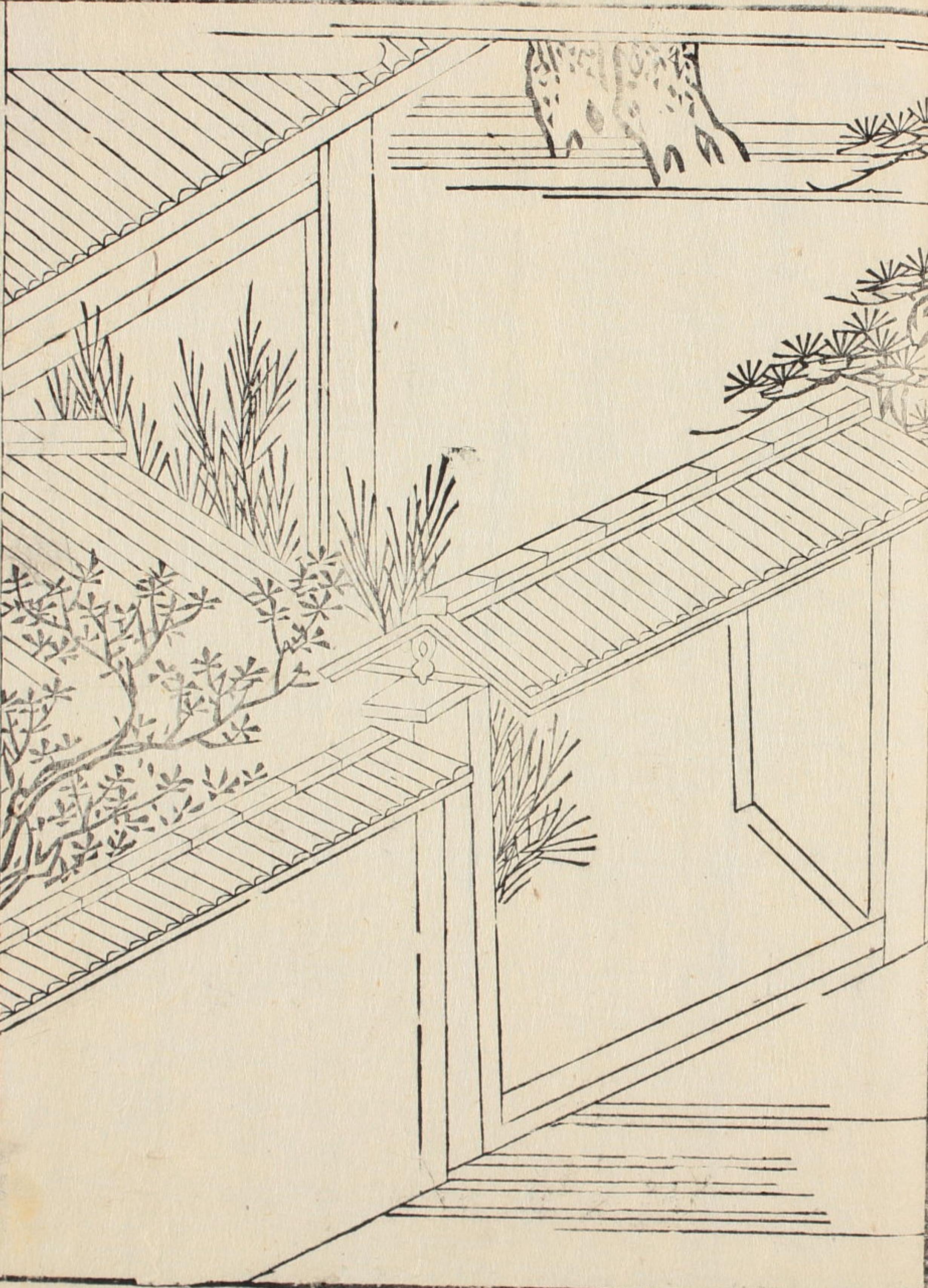
卷尾注解天下の山行つふある。にづと。ギ人師伏見毛。近畿と一集。
木の儀二千九百。室の儀二百九。塙の儀十九。句の儀十九。是御貢カミタナが
てうけとりを候。これば山の御守の御事也。おから奉虎カミタナが家入の松
見。松任足スルケヒキをも。むねゆりくたかび。よりてタクシあ
あきてあるふ。

天平猪空元年十一月廿日

白山奉虎

卷之九八千九百二十八

とかいとあくわひよ。半島よりみせうそれざ承。文と信のうひうて。是元
半島よりうそ。今度の山行はせきくむひまんと。守大は御ヨシコモリをら
げすをなまとやひよ。半島承りせうそ。彼の承より半せいかせくゆう。
そ今般アマフハ行ハシメをあつ仰アツヤせく。山ヨシコモリのうとやぬ。まく二言
言もづた。何方ゆともなく。もゆも。う御承ヨシコモリを。山ヨシコモリのうは
とゆ入た。故人ソグニ。半ハ人ヒトあつゆねく。翁カミゆは皆オモイゆる故人ソグニ
山行の門ヨシコモリをまう。であく。よよりあり。翁カミゆは清キヨシく。礼ヨハく。僧サムて。山
翁カミゆの坐シテゆよりあらう。は行ハシメの禮ヨハをまう。守ヨシコモリと禱ヨハう
とらう。山行の家人ヒトゆりま。えばかりとまをく。唐房タカヒロの上ウエをよと
む。伏ハラハもあらひやもり。そりとく守ヨシコモリゆ。守ヨシコモリと禱ヨハう



年一出来よむかくあひあみゆ。兵士乳アキラシテ一箇クニ身シもひぐ。承
つてくやと曰。下官ヤウカンハ自ジの名メイをもぐ。相シマツ教タチガカトヤハハのまハ信ヒ。
は後シタタ奉シテ居リの所シテよつた。供シマツ兵ヒヨウもだに禮サハニ事シタりたまハふ。雖シテ有アリぐ
かづけ取シマツ。下官ヤウカンはよつからずつる役シタの者ヒトれハば。終シテよあつてそのれを
きえシテあるとシテ。守シマツきうそシマツ。是シテハ正シタ礼リよそシテた。天下アメニのひともびうと
ありくハ。がく官アキラふ候シマツ。いがく拵シマツすつすまうくシマツ。候シマツ也ハ。候シマツ也ハ。
一シテ事シタ。下官ヤウカンのよシテ。ふよシテ。たシテ。だシテ。ちシテ。くシテ。はシテ。あシテ。よシテ。うシテ。と
らんや。と遠シテ湯シマツかくあるうたシテ。だシテ。ちシテ。くシテ。はシテ。ばシテ。おシテるシテ。がシテ。
きこゑシマツ。拂シマツ。きゆ杯シマツ。のシテ。むシテ。くシテ。ハシテ。官アキラよシテ。うシテ。わシテ。を
干シマツ。やシテ。ぬシテ。と。至シテ。よシテ。歸シマツ。來シマツ。やシテ。と。之シテの。わシテ。ど。も。あシテ。
は母シマツ。が。ま。方シマツ。拂シマツ。と。ひ。く。守シマツ。拂シマツ。の。あ。さ。あ。じ。ち。の。歎シマツ。よ。そ。く
い。年シマツ。か。よ。そ。だ。く。と。そ。し。拂シマツ。の。う。れ。ー。が。く。ゆ。え。そ。お。れ。せ。そ。が。う
あ。ゆ。あ。の。そ。の。い。ま。ひ。き。よ。か。れ。く。と。て。立。こ。く。全。ま。り。と。く
ぬ。み。ぐ。く。考。よ。り。と。そ。拂シマツ。の。然。意。よ。り。か。る。く。る。
と。う。し。し。じ。ひ。く。直。す。ゆ。ゆ。拂シマツ。ー。あ。ひ。な。る。と。れ。ゆ。焉。ち。方。守。よ。り。ひ。て。回。
つ。て。拂シマツ。す。ゆ。よ。は。ま。り。ん。が。せ。の。ゆ。と。あ。が。守。ま。べ。乃。隣。の。居。を。モ
い。よ。か。サ。が。さ。る。守。あ。ボ。ー。あ。く。あ。と。た。ま。く。残。す。と。ハ。り。ひ。聚。も。第
又。と。見。く。り。く。方。事。府。乃。や。麻。栗。ハ。穿。り。く。か。れ。が。セ。の。穿。と。み。よ。差。
日。と。縋。り。ま。黒。カ。ヌ。と。ひ。く。と。く。だ。と。候。居。見。と。へ。よ。ま。こ。く。

てのちくはりた所とあひあらりまきかみひして。わ氣真人源麻呂も
ひま。すあそくもくじを裏紙めつもむりかみのひりう。とかこられと壇壁
の。右側に壇主をほしたまひ神玉ハ因食人をおもひびとおもひへ渡れた
ま。二三ハいをやう。守あくあくスカクとあくとおひがつ。お
せうすひがつ。ある力又用ひて回る。京あはれ押捺いあくとを
押うもううねづ死そくらく押捺ハ天石ゆかの全す。情じづくばりそ
天石に奏さきとえりある。

「此事からまたこどりを天帝のかへり四ぞの御とを御報ハ
ときとえらげまつて。海邊のきぬに近だ」といはく。が天帝の附けた
じもぐよ。主とかれきし押捺も首筋彷彿川よりおれたりと。めで
いとわひ取らきをかゝりひとひて。差まで源代城ひまくまき方ちかくもうて
まくおおたま。とくへく三般をもと。守とがよ高ち方をよもへひく
そや紀きとえをまのうだ。そののへ側よはの番々ばらうみかおび。そと食
持よあらか寝れんと。それば、守あらうと。もの金三百枚をもとを。ば後乃
身もとおせきと。わよあらか生をこよひがく。もの金浦葉もとあ
まを供へと。せば。やどりの丸をとて。腰間をもひく。家へよ
乳母をとむと。うちのてくてくおもひてく思もぬ

ねくはひよのびる。

記録の邊より酒食金番をわすれ難よあせまへ。乃首尾足らず
くちの據方にて大通跡往け、金子ぐれもあらひ。と高麗舟の奥き
し志摩にあく伊勢下から船の川舟を廻り。旅宿をまこと萬
せんを死。五合船の頭くわんと足猿がゆもあつけよよつむづ
算すもあらゆきと志摩のふ英虞の御山神の傍よれたらく
え八人あるとてうればあバ。やもくをまつとくすと
とあくとて酒食金番が爰のうち。天馬と太神あられにあ
くゆふ今日は春にゆきとく。二人のがくまにまくと
スに走り去り。安井南の原をたまく。ほりをくみゆく。おも
ゆくがくとくと。御番を意とだまふとゆひくもあぬ。三ノ所よれと
て天馬あらだ根あらか。山洋休たとみあり。是るるとくに。三人分と
海く。ゆくよく。山官の方をさきさくみ休おとて。足く。南の原方に
あくやく。船や油とゆふ。財の内家をうへては陸地さく。浪の東あら
御番えに盡無ありとゆひ。南の浦をよむよむしてきて。船もとゆく。
笠海く。あたる船の御船ともゆく。真よ進じあつて御用よゆく。あ
ハ船もとゆく。とうべく。寄りしき。どみよをよう御取の事よむひ
て。此船よ人や坐ひとと聞へ。き父。入らア入るがよ。萬歳の席よ。う
魚舟候く。處の浦よ。うがはぬらよ。がはぬらよ。あせび。度よよりて。う
りよ。足ちかくよ。う。おまかく。おひそ。我那と。う。のよ。う。おま

の事をあきらせてへと進むひまゆりのやうとひまよとあつて筆耕に
て死のうち近づれまだ金もせぬへやる。大刀も素戔の刀もこれに見ゆ
ゆゑんとく先船よりばく。往おは差御うとのもゆ。金石太刀行す
年行。武城良基の足利さまでじゆ。彼方ハ押羽君の正義人ゆく後玉裏
たとハ急ぎたうどひぬを首に足ふくをうさか麻の所就
金養もねぐれまをうよ。口く供のあわせ祥とかう。そこ膳
御の事あそと同だ。私のうちみくらへめたあふ。どうまてみとぞ
ひあたまひやくましまんとあつみ口く供のあわせ祥とかう。そこ膳
人こを達さうもやれ。神えの方をおまきに樽のをえひと
とあらねばをまよめた虚表とすをにまうとぞらまされ居う。さて前
の筋もとくびとくへはひつゆくに金表がのちく巨勢長安がようひ
よそく甚飯よあ。巨勢楢やがるやあとゆかくさきよあまきよわ若
てあうのみもひともひてもひ代々ひく御終ひよあうとやひそと高麗
の筋よかうくひたせのををまんせかくとくとくとくとくとくとくと
の筋ひもすりに渉もる浦方にひとくとくとく浦恵とたのとくとくとくと
ことす。また空大神の山祥ゆうくとそかくとそゆくに山祥のそくとく
すれ渡麻良金磨吉ひくあく。波もあひまうちまひて。その秋ハその
まつじてかことせりけつし。秋役をゆくにかくうに世事あるふ旅はよ
ハ筋よ船をよろりとく車に轡の湯原あつむ。船をば唐蒲よ邊す。

因そみゆかるもしく。唯而よ出ひつけば、くちのびのりつゝ事よ志のびを馬
よあつる。よどく。六里半あとの處とくに。そ難保寺のふよひて。波磨
へくに若く。のぞく。ば野ふむか。修業寺。東の山すくかべの山すく
え。ば波よく。山房の山すく。わざく。ある。天下の民くさをめぐらばのち
あけん人々至るのふよく。わざく。ある。天下の民くさをめぐらばのち
は。筆那のふとひが。大和のふとれども。ば山房よよくや。ばも岩所の後。
あづく。度の。よ。鷲鷹儀。まか。百枝多よきひづく。とむか
うらひゆく。されば。どその樹の葉ハ。波那の山すく。にかづく。どく。し
人。木の粉をわざく。葉變よす。波麻呂の脚ス。山すく。ば。ハ明の。あ
天皇の御丈乃。山房よよく。と。おしゆか。おゆか。おゆか。おゆか。
らんや。秋は。波よよく。と。おしゆか。おゆか。おゆか。おゆか。
ちく。強に。あう。様の。す。あれ。大和の。あ。松が枝。およく。どうら。ぬ。常
を。く。

すよまけ。隣松。えの。よ。ぬ。じ。幾代。あ。ぐ。の。草。の。御。丈。ん
あ。き。あ。の。力。自。合。う。き。や。一。御。丈。の。方。ゆ。去。わ。き。あ。り。と。も。あ。る。じ。ま
せ。山。あ。ゆ。わ。り。し。あ。く。

ば。波。の。く。と。お。や。か。じ。ご。山。の。松。川。山。脚。く。あ。よ。う
人の。山。の。う。え。な。行。が。つ。よ。み。あ。く。わ。か。う。れ。ど。え。よ。の。山。じ。き
れ。あ。わ。な。れ。ば。む。づ。一。山。裏。ば。く。と。く。ば。波。よ。歎。送。り。て。と。ど。づ。し。波。ま
金。森。の。山。源。乃。今。ハ。經。歌。ま。く。ば。波。よ。さ。だ。う。よ。も。あ。ー。け。か。か。と。た。あ。う

とこひくそめあひゆ。あろれスカクアリム。蔬やをもえ
ゆつ重慶の國玉食矣。はるか御ひだり。きつて居あら。今も於
いときのてら。はまおひしもるなりよ。

芦芽の河あへ一枝をむかへあるを。

とあみく。源氏城。ひちかよす。御のゆ方をまへ傍毎。日かくく
さのう。に。に。に。に。に。に。に。に。に。に。に。に。に。
きしあわせ。かく。わふ。さ。あ。と。か。よ。う。が。く。れ。と。む。や。く。は
の。が。く。よ。ば。所。も。ぞ。君。ま。じ。く。は。あ。け。り。年。故。界。身。高。年。金。麻。呑。い。大。ち
刀。活。麻。呑。と。た。モ。の。す。金。石。又。を。直。ひ。ま。る。セ。ロ。シ。ハ。の。ひ。た。の。川
あ。ぐ。べ。く。金。宿。中。の。一。百。白。猿。を。ま。の。大。城。よ。く。ロ。ミ。先。よ。ま。り
て。か。べ。と。ヤ。セ。バ。祖。王。も。キ。く。う。か。く。い。く。わ。で。た。く。か。仰。み。れ。白。猿。を
書。も。あ。じ。う。ひ。た。る。金。麻。呑。ひ。や。し。ひ。一。娘。の。ま。ね。ぐ。を。ま。す。れ。
と。向。猪。肩。ま。ハ。ち。れ。き。う。き。て。こ。そ。う。な。う。ゆ。う。な。れ。ど。り。ひ。て。あ
寝。ま。う。怡。ゆ。な。り。白。猿。ひ。と。あ。ゆ。た。あ。ぐ。ち。の。え。す。ゆ。や。り。ひ。て。そ
ゆ。ゆ。り。く。り。ひ。あ。ぐ。く。せ。と。ま。び。活。麻。呑。の。ゆ。う。ま。ぎ。よ。ど。り。お。一。れ。原
く。ゆ。三。年。と。く。白。猿。ひ。と。あ。ゆ。た。あ。ぐ。ち。の。え。す。ゆ。や。り。ひ。て。が
つけ。ん。ハ。お。か。を。ま。づ。く。な。う。よ。ゆ。セ。だ。る。祖。王。活。麻。呑。に。活。用。せ。た。あ。ち。う。
彼。が。患。終。ゆ。く。う。ざ。セ。感。覺。た。す。ひ。る。や。金。麻。呑。輕。ふ。ぐ。志。原。麻。
へ。た。の。ひ。而。て。大。才。方。底。故。底。也。高。も。大。才。よ。め。も。ま。そ。て。そ。の。あ。う。ざ。方
真。あ。ゆ。き。く。や。が。又。熟。切。の。底。原。麻。へ。ま。た。巨。筋。梳。や。ど。り。あ。ざ

あやあやて新へる。あがれ是身悔ひてやし。祖主づくにゆるをもとせた
あらまづまうのやもひとゆうたまひ。白猿の走まむかひきこえ。唐
麿書す。布に金麻呂ハ方に行くと。お医みの所をぐすみをやうせ
たまへ。或遊え京金石大ち方の糸。ハ尾法三の處に置ひ甲斐守宣
のさうに立ちて。人の志を食なまく。その有十あり七。若キを鷹
のく。角をうぬ。そとかを旅一晩。よもよひ人八路のより。今
かく旅人のつまう。ひもせらむ。祖主もうちのまじてせがうけ。

第十九條

人置のま納禪幻の太神金次二かつ。布に弓箭の

俊敏陽もとむか

あやの圓を承取。大にす。あら神田の下り方。う印前とく業ともうめのう。
兵城う底の修繕と。す。するハちの割。も。す。も。ど。と。ま。く。め。か。く。た。る。
其處にままで。年。二。千。萬。の。う。印。送。く。聞。れ。ま。に。賣。あ。づ。な。ふ。や。ど。に。家。ち
写。素。く。た。だ。と。人。取。き。も。う。う。け。す。る。ほ。と。お。れ。ハ。業。の。す。ハ。う。び。吸。と。ま
じ。ひ。く。の。い。か。ゆ。う。ん。肩。毛。と。毛。く。挂。ひ。旅。す。の。と。宿。す。と。志
け。業。へ。と。宿。す。か。く。て。業。が。お。の。り。と。三。れ。ば。づ。く。匂。懲。ひ。ど。よ。
私。あ。れ。女。ハ。げ。家。よ。あ。づ。く。は。う。づ。ー。と。や。か。ひ。な。さ。る。よ。う。下。う。ゆ。も

かきのしきる女をもハ。候。魂女の手取萬々^{スカサハ}が原す。ハ。彼翁^{カウ}とゆれ
事のあらわさうと。へまめりしなづけ。ほどよ。まく人肝煎りのども。憲
家につかひんやとの對象へせり。甲乃里にうちなれたり。女のとをえりき。
うすと。あれ巴^ハの家にのと。押しつけ。内もまく二月の二と
ゆよ。是もあくは良はとも。かをぐた。す。魂女^{カウ}。とかく事の種
みよ。わざく見あそび。かそんと。よちのとて。まく人肝煎りのや
う。そのとく人置の。あ筋^ハと。附る男を。がのやうて。よられと。うそ。
彼は人置の。あ筋^ハと。あそびたう。附るも。す。年季^ハ。就里^ハ。よからむ。もと。新
金^ハ。かそりもと。ぐく。又まぐれ年季^ハ。就里^ハ。よからむ。もと。新
とく。もう。である。は。二月二日。三月。よされば。もと。筋^ハ。家^ハ。安^ハ。と。ふ。彼の
よ。あらゆど。やども。うそ。みく。おのが。が。ひ。う。と。何^ハ。グ。事^ハ。ハ。下^ハ。櫻^ハ。と。う。と
窓のまく。よ。か。つ。重^ハ。彼方^ハ。方^ハ。こ。お。一。う。と。に。彼^ハ。臣^ハ。つ。く。ま。魂女
と。ぞ。歌^ハ。え。う。た。う。と。い。と。う。と。も。さ。う。が。く。も。下。る。か。す。そ。今。あ。と
て。あ。う。一。人。ち。か。ら。口。と。ほ。そ。く。聲^ハ。み。ド。か。く。喰^ハ。く。から。か。う。と。獨
ハ。翁^ハ。の。う。ハ。ね。翁^ハ。ひ。じ。き。て。た。る。も。が。こ。な。り。翁^ハ。ス。う。か。く。と。肺^ハ。い。と。翁
き。が。先。と。巴^ハ。の。く。よ。端^ハ。ま。げ。て。嘗^ハ。心^ハ。ど。ゆ。き。か。く。死^ハ。た。る。ハ。ハ。ま。を。み。う。う
つ。あ。う。と。美^ハ。縮^ハ。う。ち。と。よ。死^ハ。か。と。と。死^ハ。よ。く。と。の。ひ。と。も。ぐ。ハ。づ。く。う
も。し。あ。う。と。と。入。ハ。翁^ハ。と。ち。ひ。く。ら。ま。く。声^ハ。吹。物^ハ。應^ハ。の。く。室^ハ

卷之十

三

く新あよあくすゑあらう。全くまゝせんといふ。まよあらハ肩ハ
えちにそくはれく額のまことくわく。鼻のむけられくうちひみ顔ハ
いともく笑まるにあきらめずあればもじび。うらうそく是も下酒
づ。底の因表ハりよせたまうん。ざのへど向バ。毛野のふ駒田まくはる
とやし。そものまよあつ。ものとあらだよ裏の表ハお祭りたまま
まに舞々きの園うら。まがよえびどく。常ひと度くうちひうて振
ひ唇う。らうぞまく是ハモトとこのがくはらう。色のあらだが白隣の底
きうとくをび。改よあらはうのをど十七八と云ふ。肩とりとく
眼は碧うよおきめりく。鼻のかく唇く。唇のあらだ。苦ひをまくちた。
のあらくまくへた。のり。仰のかもどく。施あらだ。のりのあらだ。そのひ
たと免あきこがまねと。よはるの毛色よほくかく表。青緑の錦の
革あらよ繕び。れく。うみ入る。壁うりむりがどもハ。表のうのふ
夥ようもとまく。初夜する。ぐる相殺力もとよりよつむとゆとり。うで
うちみく。かわどり今まよ多めや。かどりうそのがくをうじ。豊力
ゆくにきれのううれ。ものわとゆる泡のうとく。せのゆうく
ア麿娘う。うくすと六萬七千。ナソスセコのねのまふせきくに
故の人ふ。がくある。ハ行へにうづたまふ。さるまのへハ。づこの家ま
むらふ。そ紫ひと空。ハト十八そとひふ。あハらぶの人。みこハ御
の山の南に。年々とく経すもらふ。さくす力もぐく。うのみの傷



あつへにつれかわすけたれとれくとくうもふうけむる其のれ
はま。底のちとせんうけまつてあるか。今まへ坐あつて。まじて
べがるを。バキのま筋とあく。おたのとやひよあれりとい。
事もひかたく。後故實。自らたまつ。ひそもう。縁うどす。かく
新あとのたまぶられど。これえたりへきの嬪。おの鶴姫。不。う
款色のあうた。よ個。しかね」と。やひくもぐた。とく。あ。せば。せ
所よ因ふの。も。あけ。せん。ひし。ひし。られ。新。かたさ。れ。よ。鶴。公。も
うやされた。あり。されど。う。款の。人。ひ。か。ひ。な。ま。ふ。の。う。又。後。故
ふ。も。か。い。あ。み。よ。ま。せ。そ。千。年。の。食。か。ひ。た。の。び。く。ま。せ。ん。と。も。や。あ。た。
生。ま。よ。入。わ。を。と。り。と。づ。じ。あ。つ。よ。お。ま。あ。ま。も。と。そ。興。の。う。に
入。あ。す。そ。う。と。韓。姫。の。衣。神。つ。入。あ。く。う。下。坐。ま。ま。か。と。ひ。く。す
の。そ。れ。き。ハ。天。あ。わ。ひ。ま。よ。か。と。つ。ば。ざ。り。ひ。ゆ。ま。う。と。と。す。ま。衣。神。ゆ。す。
む。ひ。く。と。坐。ハ。お。れ。放。よ。た。く。一。時。よ。よ。く。ま。り。す。人。な。る。ひ。と。ひ。
ハ。後。ガ。の。も。く。み。も。う。ひ。ら。ふ。が。これ。の。鶴。母。と。つ。れ。く。ひ。殺。を。う。そ。と。び。う。に。う
方。一。も。う。ま。ま。と。ヤ。し。お。れ。あ。う。た。ま。う。ご。く。里。と。う。居。よ。入。食。く。ま
の。本。や。ち。ば。お。く。ハ。ま。の。あ。せ。ま。く。お。の。め。代。を。と。や。わ。じ。韓。姫。と。お
た。ま。そ。お。神。く。と。の。ま。ひ。寒。ひ。く。残。と。ば。う。う。代。を。と。や。が。せ。う。今。お
ま。ん。の。か。み。お。瑞。く。と。の。ま。ひ。寒。ひ。く。残。と。ば。う。う。代。を。と。や。が。せ。う。今。お
し。が。く。富。く。と。だ。す。お。の。た。う。な。す。ハ。り。白。ど。竹。是。ひ。ろ。の。こ。ぎ。に
か。う。く。お。テ。確。女。ど。り。よ。き。あ。う。ま。う。れ。様。き。き。ゆ。ア。ム。金。瓦。青。と。や。ハ。

あらむ人のよきが女となりてまたにほなふよ。もとよりわたりたゞく
まじにまかれて。あれどもまく面引の。すなむ君乃神をみゆ
ひそめのうちよハツカム。金ノシテナシテ。御子をも。ば祭
よ伯母をひく。淫毒をもさひ。あれよ彼ノアヘン。ちのれも。ば祭
人もの高納とや合せく。やあま。さる。すも。かわゆか。まみ
絶えぐと。彼故きあく。だく。とあゆのけく。首のゆの御坐方
みく。まさん。稀に。うきよ。ふゆ。ひづ。ことじねの
ゆきこ。うけ。ば。か。あ。む。せ。う。か。し。か。セ。ト。や。ま。御。と。高。納。
ちく。金。ハ。う。を。う。キ。も。あ。く。び。す。せ。よ。む。と。ひ。く。ル。御。坐。
ま。高。納。お。う。か。の。た。う。と。く。う。ち。暖。モ。居。た。う。高。納。モ。居。ま。く。う。ち。よ
ろ。こ。ひ。ま。ハ。と。よ。遊。く。る。所。と。り。そ。ざ。り。べ。う。あ。け。ん。萬。納。の。高。間。ア。ロ。う
ハ。と。遠。し。五。回。の。き。ち。又。遠。し。さ。ハ。曾。き。ア。レ。に。せ。ん。う。と。れ。ば。花。家。の
も。う。か。ゆ。り。ハ。ち。か。た。も。よ。か。び。き。と。ひ。よ。よ。か。ぬ。す。の。代。よ。花。家。の
ま。な。く。れ。花。ハ。あ。せ。れ。い。な。く。う。櫻。ち。く。高。空。モ。う。ち。も。れ。く。と。る。ま。じ
定。あ。と。や。い。か。と。こ。よ。ハ。今。度。う。度。よ。せ。そ。家。ハ。か。と。う。行。く。れ。と
廻。く。う。だ。せ。ゆ。も。く。金。と。ま。う。百。數。だ。く。ば。大。神。よ。お。う。た。ま。く。
り。う。く。經。く。事。付。く。あ。セ。バ。友。神。か。と。う。く。う。度。よ。う。だ。小。娘。ア。
み。ま。ま。う。る。だ。ひ。そ。か。と。く。彼。故。が。か。と。つ。う。り。残。ハ。被。金。に。入。

行は信頼へ里のアヤギとみる所があく。其の萬石アヤギアリモ
トキアレ。どよくもの家は定りよ。ものガ女キモモカタ。伯母ともアレ
サヘ。あれハシヒアリアリ。金石殿アリヤルカ。毛カトアレ。
アリカアリとのきえ櫻也。どもハ。竹よまれ家よりとく入る。さそ人
毛の力とてゆく。あく御ひつり。今印ととお家にりた。鹿屋
毛ひ。毛モアヤカミアリ。又金石鈴うち着ひく。その家ハ。松拂
ハ。すも塵ひとうだもたゞび。御く吹きやう。宣人の立退たる
あり。ものもアスヒ。文石の仰歎。どうひつり。すにやがえし。とあく志
く。櫻ひ。佩とも行あき。ひばりの家。むび。まづら。往
か。毛う。が。能よすもな。之の火たまひ。から御にあとら。おき
て。りゆく。毛も。但せ。と。や。かくも。まし。又。あ。が。おひく。あ。あ
た。ま。ひ。つ。く。毛。ど。家。の。り。み。じ。れ。な。き。の。ま。く。く。た。ぎ。の。新。し。た。
後。の。ま。れ。サ。り。き。た。う。く。な。れ。家。の。ま。め。あ。そ。は。金。ハ。キ。る。家。未
だ。う。が。櫻。タ。モ。う。ち。た。う。さ。き。の。木。ま。り。と。く。櫻。つ。石。と。毛。
も。も。と。あ。が。毛。家。ハ。新。櫻。う。れ。ば。ま。づ。は。金。ハ。重。金。を。残。り。ま。れ。の
き。る。十。ね。あ。ま。う。ハ。如。ゲ。使。一。た。う。櫻。葉。は。そ。と。り。ひ。つ。と。う。ま。け。は。
友。毛。ち。よ。く。に。ま。う。と。十。ね。金。ハ。と。く。す。と。こ。も。あ。よ。む。う。ひ。か。う
た。木。ま。く。さ。ハ。見。ア。ま。ま。く。も。が。今。も。う。ま。ま。く。や。く。の。う。を。
又。伯母の。お。自。も。の。人。と。は。ひ。く。お。次。教。へ。あ。く。も。ぐ。に。あ。う。ま。ん。

まづ先よ多アたまアとひふに。さうがとめへよをひくのを。バヤサ
どりよあぐさセ。佑姫すもと力よそのあぐうつりたま。お高ヨウいも
ゆきのあくバヤ男レモヲとこにまらふよなごりひち。そあれ
つ。ちゑの向君カミマツハ今まうとやほきうん。それまたよあらひ。慈ミが言の
姫ミコトともの國の豹コマカ女コマカと。ば二人に向ミタるのやし人ヒト。やくあるえ。
駿代スミホハ猿カニやかくり。そこそかの頬赤アカツチ櫻白シロツツクも。見
アセアセ。あくらじせん。友神アキツチと力カタひて立タあら。あくら
に。まゆマツメをすつる。どの。じと。まゆマツメが。も。筋スジも。さ。ぎ。く。く
ち。あくらく。あざみのいとたれ。み。寒ムシ來カミハき。ゆく。すの。く。世エの。ゆ
と。別アベる人の被ハタケぬ。う。が。年イの。や。ど。四千萬ヨリシナミを。う。ふ。く。そ。む。と
う。ま。ゆ。か。使ハシメ。八。金カネの。高タカ額カツカツを。人ヒトに。も。若カニラ
一。と。壁カニラに。ま。あ。ひ。仰アゲゆ。の。力カタの。も。お。い。く。が。ど。く。彼カミ今。あ。い。が。ち
み。ち。た。ま。う。ひ。ひ。び。あ。く。も。は。る。う。れ。じ。と。み。か。う。こ。と。き。ひ。が。よ。え。う。じ。
今。春カミの。や。ど。出。れ。く。よ。屬シテた。ま。わ。り。の。や。ゆ。を。ま。く。か。れ。ゆ。通
え。き。そ。み。か。ま。あ。る。高タカ。ハ。づ。と。な。う。か。ハ。あ。る。と。ば。行。く。う。け。き。う。ゆ
に。仰アゲの。刀。自。力。く。ひ。と。か。な。き。と。え。ま。く。さ。ハ。ゆ。せ。た。ま。今。あ。ぐ。ま。ば
一。の。高タカ。ゆ。か。つ。あ。ま。う。さ。ざ。ま。今。あ。の。イ。よ。さ。び。く。か。ま。く。り。じ。つ
ほ。ま。ゆ。か。く。さ。く。ひ。ハ。ま。る。が。く。う。ち。か。か。く。く。昇。る。ど。う。ち。か。か。く。昇。る
よ。く。あ。く。り。と。ま。え。ま。く。佑。姫。さ。バ。と。こ。よ。せ。く。あ。り。に。退。ふ。れ

てゆつたまよる。不まハツシと云ひやうあるとして。仰みがまくせ神
をももる。是も異うちかとぞ。其後一人すむ事ぬ。やるもあれを。
今ハもの家よりあんとすむにち女先よまきもあべけ。

第二十條

弓屋の僧歎人並の鳥筋松人并にそ鷹力

ニ玉筋毛ふ。

人之の鳥の筋釋的の多神。是もあくともぐる。事有のち女先よまは
ひく萬々アリ。すくととく。若き方たゞ萬萬よ造りあせる歟の傳
にまわゆきくしづば。ナクよ移家のあやびよもあく。妻ひつようち。
りやもまくに渡りく。雪一のひとまく。あくがうかのつひ。さうまく

までもりゆく大刀宮事とやさんすも。スビウハサキドと云ふ。彼御
どり麻も。なまくの今よらひ。まく生れあくる様のたぐひ。まくかくまく
到る。人をあれ。彼御御圓。まるねだく。大中平人よへらひ。ところは
故ゆきもつる人ぞ。あくわ後半のち。おうとひ。が。そこも破局てらん
人ともえり。今御事の後半の後半。彼女も神のひもあら。い
ちくわく歎きまひ。仰みとそハその四住人のたゞひうん。い
れべきひぐわらか。そげ更の守ハ神田殿止候。与とやなまふが。わがく
聲をもひ。翁く。が葉のく。そも。への身の役スをわゆゆゆのままで。
きをまほ人のたり。又神。おひか押。おう。ばけたまづん。とりあづけ
あづむか。彼女ハノアラル。まうよおもくたゞよ。彼とうれし

其とこそも故のくまく。やうやくもあつたまふとあつた。建文一通あつて

シルテニシトアボリ

てあくなき人あれどもひにやうやうとさんといふ。大神ゆくともあそび

ゆみはなづれど。我ハ文あゆあらび。昨今とて書あざめり。いえせど。

うくは伊勢かはりく男よかはるあひに。まわらのとてかはるあらく。

先ゆらゆらへあらん。人妻の生を破壊すたまゝとりへば。とてとて

て五郎^{ヒコ}薦^{ヒタチ}すたる翁の。妻ひとかきくとまやのめぐら。わけてもう

のく。伊勢みさくとまう白きく。まく人の魂文とかひたまへき。はよのつる

ゑべにまのすかくまづれバ。ふ云ハ種うヤスニ。まくく書たまうと。疋^{ワカヘヒト}

奥^{オカ}城のひもろだとくあくさそヤベーと。そ。やく一様つよび毒の^{ツヨヒタリ}

とくひおせバ。伊勢を決^{スル}と。彼子ハ西使^{ミシ}ととハヤアレ。毒とす。見^{ミクサ}

ちたうハ皆^{ハシ}びとのゆ。がくとくかく家^{カク}家^{カク}がくろ。若^{ハシ}のひを^{ハシ}廻^{ハシ}

ハ傳^{ハシ}事^{ハシ}とくよゆうてのあくひゆ。毒^{ハシ}の^{ハシ}とハ被^{ハシ}くすのゆ。もし

たふ。まくとく。僧^{ハシ}の^{ハシ}とあひだぐく。がく。なまくわられ毒^{ハシ}とま

たまくとく。伊勢の刀自^{ハシ}とてき。波^{ハシ}す。まくとくのとく。自^{ハシ}と

まくとくそ^{ハシ}。伊^{ハシ}の殺^{ハシ}。とあくとく。毒^{ハシ}とく。がく。てハキ^{ハシ}と

かく。て^{ハシ}と^{ハシ}。死^{ハシ}よ。多^{ハシ}退^{ハシ}あんと^{ハシ}てきよ。ま^{ハシ}行^{ハシ}きれく。さら

御^{ハシ}と^{ハシ}ひた^{ハシ}。走^{ハシ}りあ^{ハシ}も^{ハシ}の^{ハシ}と^{ハシ}く。がく。て^{ハシ}と^{ハシ}

御^{ハシ}と^{ハシ}ひた^{ハシ}。ま^{ハシ}の^{ハシ}の^{ハシ}と^{ハシ}く。あ^{ハシ}した^{ハシ}と^{ハシ}く。かく。て^{ハシ}

神^{ハシ}行^{ハシ}う^{ハシ}の^{ハシ}と^{ハシ}く。お^{ハシ}は^{ハシ}を^{ハシ}と^{ハシ}の^{ハシ}を^{ハシ}いた^{ハシ}に^{ハシ}く

や。今と^{ハシ}と^{ハシ}。あ^{ハシ}と^{ハシ}。あ^{ハシ}と^{ハシ}。と^{ハシ}ハ^{ハシ}と^{ハシ}神^{ハシ}の^{ハシ}。我^{ハシ}は^{ハシ}於^{ハシ}少^{ハシ}の^{ハシ}う

よをすゆこそやうれ。毒あらうすひちばうアラビ。けふあるゆる
つまくハゆやくの金筋カネスジ一たるもん。さるか父アトももう。せこ
こそいをかうるもももくひきの金カネすのあれとて。えすしきらう。ちど。
人金からうと捨。肩カミからう。さるも今來後輩ハセイのあんとのよ
ひこうに。さうの後アヒタでハコとつりもすえ難ハシタ。りよせんく。よーく
あづ羅文アツラモンのうきは仕人ワカヘロと書せたまく。あづら刀アヅラタハレモカクふもと
くしもぶんふとりあよ。仰アツの刀自サーへとこすりやをすと。りふ
ぐきうにくかりつけたる羅文ラモン。

「つよけ仕人アツシムをあひゆ。大和國ヤマト源氏エニシマあらぬの取ハサウメのあり。
侍シテの家カミは仕人アツシム。出エリ仕ハサウメすうづる

二段四家ヨリニシマの角カマハうけたるそとくらすもむだまくー
三段天子アマテラスの出エリ役ハサウメよたうひきひくまをまくー
四段たとへりまよの榜ハシマすとくらすも我ガあくまをまくー
五段ー

又ウニ一年に鶴小判ツバメコバンと金三枚ミハナマと鷹タカうちとけ及金二角フタナタメ
二年もるは年ハシマの主シテも出エリすとくらすもくらすもだまくー
伏定ハタキかくたまかへりあうは年ハシマの主シテとくのなまくは後ハセイ
像カマのこと

天平勝宝二年二月二日

右延後報アキラハシマ

釋アキラハシマの文仲
人志ヒノシの主翁

ともうもせびば写とあをくわづかとあせば人をあみぬる。是
男のゆゑあをどひふひりもがうくわづら。ぱりと女子集く。よぢ乃
大々一業とあたすくどつひだく。懐の儀より下ひとうをあく拝せた。
お神ハまろもおびとひす。ハ行くるとく。の太拵タケくとくあめりて拝
せ。さしあのもむちうよ。まぐ食ケのあうけせをく。あ多金タモニよハ多金タモニも
とあ。萬金ナシよハ萬金ナシとあ。萬金ナシよハ萬金ナシとあ。寛人カクジンをよびたそ。謹シビト
ひき清シキととり迎スル。まご安セイごもユマアヤセつ。おわれらハ清シキも寂シキ
て。年の暮カツや初ハチよ人手の下シタよあざせく。後アヒテ鏡入ミツガサに去スルあく
と遙ミツカどじひきれば。げそ史シスハ永ヨリよあまれて。どりひづわせく。
ちやああくかくひよ。是シタよあひて。清シキとびかくとき

ゆよもく取てやどく。おのかれよすくはくとえきうてびそ
くとわゆみかくす。二八節まねきく是父よひらう。唯わの化たる
アヒモササハがくとあくばれあくけもふ。夜もどもかをりこちてあ
れよ彼山の神乃り。そとくぢれまにぎぬあきく肉ゆひご
スルハ所かあすあり。檜やカミカウ。がとのひのみざれた。はく櫻
ゑれ秋のとよき、たつゆきく。佛よかづくうを。がとよづけ男のま
ハ面とみかく。ひきひく。眼のまくうちたれづる。鼻のうへひとき
く。うの穴もまよひだま。只ハ聲ようもんれ。聲ハ吉モアガ、ごとくお
禁く。身段生じまく。おハコスラム。耳のまくともく押されて。
收納のまく。まへよけふもとも。木本よりおひそんや。大

卷之十

一

神奥よりぞくうちさくに。但ゆもあおもああく。のぞむた
まよわしあて。近^せ延^のもあびれあるゆびりバ。僧^カ院^カ席^カ
すいとうけくう。まづ邊方へかをよしハひとから。先邊方へ
くといひ人をとかがく。是ハ仰のあそび候人^{アシヒ}。候今邊
もまはきまむかよどりども候かとく。はくあた候のうと
丹^ス巻^カふうじむだたるがうにうちう。うは先うかるどもく。ほ
きひこゑども接^キる。入^スをゆふとく。はくまゆば金^コの櫛^ミとく
まく。また前^モはむうし居難^ジればざくわ。比のうへよ送^フりたあ
貧^モの子のうりよ。底^モうつよ向^カく。物^モそむきあれどう伏^ルた
とを被^カせりけ。伯母ちかくよつゝ。今まゝの年の年あ^ハかく。は
るもうひくへくもぐに。あふの風^カ信^カもちまれば。はくうちく^ヘ
てひのれかどりよ。きのめくといきもくももえひ。人^モハひ印
か見^カりてく。はひとくわか^カくこそとも。後^クはよか^カもせくいく
びくうちか。御^モよま^タよもれども。はくよか^カひぢうて。歎^ハご
ちくとけ。よ。ゆくやとがじよ。がくらゆ。お木^ハかとこう。御^モ
かくのとととそれば。や^ハまきへとりひつ。我^モする御^モとみてかた
もし。吹^キあゆ^カく。湯^ハおとま。とく。個^のかくよおどり。先
ま。さあまのとともく。おもややあうてん。う希^ハあがびとく。
あとさととあく。人^モお釋^シゆもゆき^カ。よりづくゆせ。まよされ
くとひく教^カが。ひさみく。も聞^カきまく。二へうきゆゆりとて。后^ト

卷之二十一

卷之三

れ。鬼ももあ。我ひとり捨られたるやうしも。まうむとてら。
伯母の方自らかくありて。背承かひきぐるど。左おひゆすまうも
ら。ば伯母ともかくともかくひあせん。がからよはきのゆきかと
り。後頭アミにげよつひび。伯母見とけ。け。はねががゆまゆ
ちゆま。ひきだすてゆまゆかこひ。せのたうふをまくよもれど。
かゆま。ひきだすてゆまゆかこひ。せのたうふをまくよもれど。
金よこしたる初家タカもさだら。我か遠死あよごとく。まんむ
一あうさんとすひも。まうくれ。やかひ。行すようひとせのこぼす
のきなう。今秋アキもあづかく。ゆせよ。ゆの秋アキもあき。金三百枚
をくふ。候よみ。かてあたまとく。後頭アミうちうめづとく。まく
とく。そらす。行く。たとく。松櫻マツヨリまたく。ゆのじく、
あぬせふと。への。やかあつて。告めたり。やつむらよらえ。ゆき方
えきにゆよ。鬱嶺ウラニハ連ル。いた瑞トモく。それ。化粧ハラシの。ん拂ハラシひ。を。を
禮エチ。おどり。く。を。ゆ。ぬ。人。毛。ハ。絃ギと。つ。く。ひ。く。か。あ。ゆ。だ。や。う。ふ
家。よ。か。の。ゆ。ひ。で。お。を。せ。ん。お。神。室ムロ。く。お。を。よ。ゆ。く。
く。あ。か。て。よ。ゆ。ど。り。ひ。く。お。な。大。神。う。ち。う。お。う。て。門。と。ハ。襖。か。よ。だ。ち
神。室。屏カガの。ゆ。き。通スル。あ。か。よ。室。通スル。あ。か。よ。室。通スル。あ。か。よ。室。通スル。
今。ま。ち。お。お。き。の。い。つ。う。ち。う。じ。て。わ。ち。ま。ひ。ん。我。お。よ。く。た。が。か
あ。ま。え。か。た。く。り。べ。が。う。う。や。も。く。わ。り。す。て。我。あ。よ。く。た。が。か

るが。おぼもが死ぐ。かゆせの年よ人のひびき。うきとおもを。傳承む
びゆくよ。彼ならうへへひよせん。うちのうへおまくは軍隊とだ。
うなへとひよせん。かゆすとがねく。神事とやあまきもふ。やうされ
候勢の大波力候よ。あゆをくる者のもぐら。うぬ原のちをかうせく。
は居あぐれまく。からせもんとねあゆ。あかてしがぞくねち
あすみ。今秋よう十日をかく。かく坐とがくとやうされ。あちくのひぐう
とやがくと。がくとあに解ひみくひ處とおもき。かくはいあくく
あたをすと。かく行まをすと。かくはくはくのとれ
あかねうとのまふよ。おもえられがくとやう。妹ハキアヒミツ
てゆる。大神ハカの方とすと。寝てゆく。起てゆく。あわもあくく
事く。つよ明承ハ歳どりの聲。うれ取。四極。ご破り。やゑどりひく。往毒と書
あくうう。歳どりすうううう。大神はく。佑母がくまよも。在
し。大神ハく。ひゆく。そく。ものほのタキ。あれば。波ハ夜。うどいと。新
しく。金ハひひー。故耶。嘗よりくと。それ。傷焉よ。されまく。能
禁。まゆどりひく。今秋。う金やつと。勢。お傳。み。そこ。うめじく
さのとも。あれま。お本。ちかく。あれど。すねが。に迎。もせぐ。まよ。く。地表
てひくと。がく。とよく。れ。我。ひの。神。へり。と。こ。ぐ。な。あ。に。ま。だ。そ
れ。ね。う。お。醜。力。地。表。や。核。氣。の。歎。よ。ど。り。ひ。く。うち。よ。ろ。り。れ。な
がく。壁。の。歎。え。と。ひ。く。ゆ。よ。ま。づ。一。方。方。を。ハ。ひ。く。と。て。あ。否。ぬ。す。る。發。に
人。を。も。ゆ。う。た。れ。バ。人。か。あ。ひ。今。然。ハ。君。の。は。よ。き。が。つ。た。ま。ふ。に。妹。が。大。神

卷之二

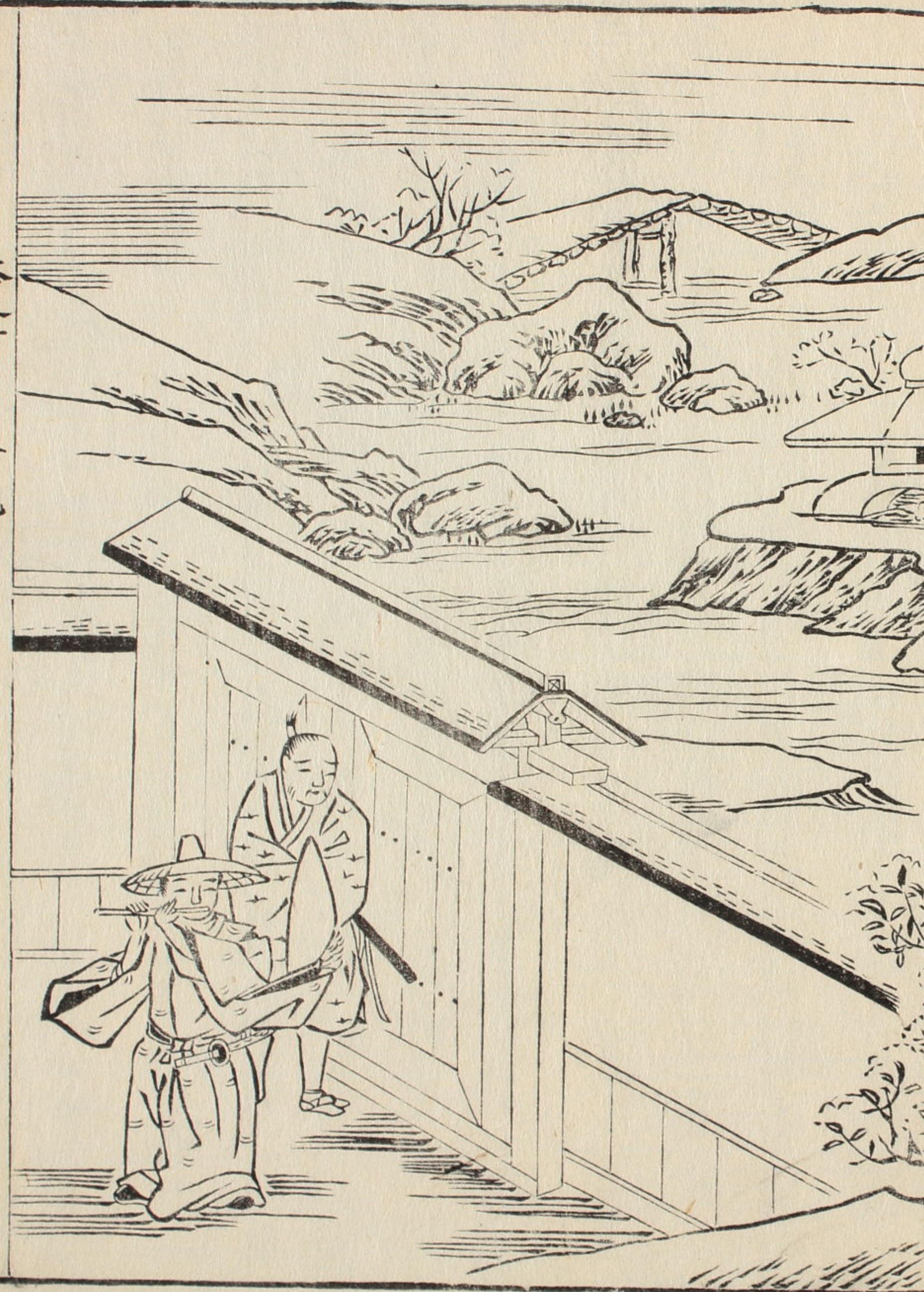
一五

也。れど今取とハ勿れ。まよひやつせく。千強の手と領、かぐを
さハス源元の浦よからんやうびえとりも。伴房のち度の度あとどいた。
傍紙ゆゑりつともその度によくんすまにまべし。さてこのひひとりば。
伊勢うち葛毛。宮崎城ふくしまとすよ。傍紙うち草毛。近
時とへりれのすととすよ。おもひの旅みとじととく。傍紙すな等
ひやもひの旅よくとくいはだ。じも考へた。月経つまた。りべ傍紙
改とかじく。ごとく。すれどうのすへたぐ。ど。ひるあくわ神と
済ようく。かじく。むりめと不室あたまへとくあくゆき。ひま
人をうまよけひて。びえと聞。人をハ彼に。屋家よまくあうと申し。
傍紙人葉ゆぢくある。むひとうに室を紙するのあまぬ。そばに

物事も出来ぬものと云ふ直人をさげられをとつてのああうじと申す所
かのよなまくはるく形体かたちに考へみるよ天わゆ猶幼くちよ一たゞべきひとの
傳とちがひよもぐとみき。あづきのれハ金三百枚さんびやくまいをこひ。まことどやもく承
りく。よのめかれてあまくやう。きよひゆかせりひとがれてもぐむり。
是このらをよがりやんをどさすくひどうて。我よ千張のうと被
てたゞぶ。充木もかよまあも。一とりふ。たゞ滿よあれ天わの授あたはれバ。
さち兵ひょう具ぐとねよゆりやう。ば者らひふり人じんを。そ序よハ人じんをよ
そよぐかゆきよハゆれあぐれハ。とかく足定あしめくたまどり。人じんをよ
てさハ今まよりはそれらのよも。さひのとくに傳家つげいとありと申す所
うつ一竹いのへと申すと申す。あれハ唐からがや歎うなたのをもつてもう

卷之三

十一



下りけ事。ざくみれば。左神。御見せ世人はひきし。まへとあくとく。
弟やぬかたがまをまう。まへとさくとく。がくゆうとくとくに入れる
に。とひそくあくとくあると。とらうよかのれくあくとくあると。もれば。
はくとくの神。いそ。はくの神。かたもしきとく。門とバナとく。お
づよを紳。がくす。花方と。ちとく。奥床に入れる。一月の花
房と千年の。ごとく。もぢりひそく。あぐらをあくじくとくをす。
左神。はくす。まくとく。むよはくとく。あぐらをあくじくとくをす。
おもせんと。おもせんと。おもせんと。おもせんと。おもせんと。
わんわんと。わんわんと。わんわんと。わんわんと。わんわんと。
わんわんと。わんわんと。わんわんと。わんわんと。わんわんと。

おどろき。表の方より射ひまほりとられと。槍と矢く
とえれば。矢は小鳥飛ひ。さうく。矢はとく。これが。まよへ。馬を打
て。矢は。矢をみよ。その文よ。と曰ひ

あわやきのままで
ひそかにやがれが行ひもあまび。ばくふよハ地燒玉うすひよ石板
肉親生きをもととあきらへ。今取あらむの傳説。人との争翁
が詔の鷹すかくとづぎさりゆ。すがれおもひぬりく。ば神界
の詔説よ解説とあくびりがたま。おもひゆうとすまゆう
あり。今おふの付とさバ。神界のまみれあふ。ば神界のかとある也。
君をかかへるをもん。今吹うづえもをあいざをもん。めふ

弘奥ミチノゆきとく方カタなき。ものく力カタよハ秋エキ三面奇魔キマキ。又
又鷹夷エガヤの國クニよハ。毛モのち稀スルき多タシ御ミ御ミ稀スル希スル。

ひうヒウ御ミ御ミ稀スル希スル。あゆかと

二月二日

高檣タカマツ乃手力

内食人奉ウヂシナミ奉マツシタス勝虎タケト

同 勝行カタマツ

とかとめたり。大神タケミカツシとおえとねのタケミコロ。またもゆくもれたり。おとて
ゆた人ヒトよろひつるかヒト。ひであづをすよんと。もう稀スル稀スルとよびあくまく。
き。今所カタマツのるよき志シをすよん。ほき族カタマツのゆのそしをひきひきま
よすかわづくうひ氣カタマツせよ。稀スルのせんとくがきく理リやけり。玉毛タマモ

のうちあり。ち刀タチ二振タツをもあくとをぞとみだをだすうねけ稀タケ稀タケ。稀タケ稀タケ。
オの稀タケをもよびゆく。彼タケ母タケがたをかうどる三百枚サムイの金カネ。義ヨシのれ
さうよまろ。君タケごはハラ級タケの義ヨシをとうらきを。稀タケを。我タケハおきこ
みのゆゆくそ。あも山タケ親王タケとたものまくせ。稀タケ行タケに空タケとまくを
て。舊タケのことをすタケ。あぬ。そふの用タケをす。神田级タケの解タケ解タケ守タケ。不
の刀タケ稀タケ先タケよたぐ。稀タケ松タケとよ烈タケとそのタケ。旅タケやタケ重タケよかタケ。不
門タケよひいたタケとよらぐ。き全くみれども今タケくタケあタケねば。こハいタケよぞ。そ
う底タケ人タケの二タケをす。おのくよびとタケとタケすも。人タケす。ふも
らタケる。がひむるをだすとタケて。鉢タケをさよが。まわすよ。えのれら
をまざく。その小鉢タケとよひタケかせん。ど。解タケのそタケがくタケひと

て。彼二人をひらくあざく。神田の坊をさしてうりぬ。

卷二十一

二十一

二條通柳馬場東街
京都 林 伊 兵 衛

發行書肆

大坂 浅井 吉 兵 衛

心齋橋通南本町北街

江戸 前川 六左衛門

日本橋通新右衛門街

